

軸となる取組・活動～授業改善

＜岡崎・近衛中学校ブロックの小中一貫教育＞

※小中一貫教育構想図の実践に向けて、軸となる取組・活動について、つきたい力を明確にした上で、中学校ブロックまたは各学校で取り組む内容を、学年または一定の学年区分ごとに記載してください。（適宜、学年または一定の学年区分ごとに、実線・枠等の記入や点線の消去をしてください。）

義務教育卒業時につきたい力								
目的意識をもち、協力して主体的に学ぶ力								
学びの基礎を作る時期		学びを広げる時期		学びを深める時期		主体的に学ぶ時期		
すすんで話を聞き、友達と楽しく学習しようとする子どもの育成		友達の思いや考えを知り、自分の考えと比べて意欲的に学習しようとする子どもの育成		思いや考えを広げ、自ら課題を見つけて学習しようとする子どもの育成		意欲をもって学び続け、確かな学力を身に付ける生徒 自己の個性や可能性を迫及し、粘り強く自己実現する生徒の育成		
小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）
取組・活動								
＜錦林小学校の取組＞ ①錦林スタイルの授業を始める。 めあてから始まり、振り返りで終わる。 ②様々な出会いを経験し、関心を高め自分の好きなことや得意なこと、できることを増やして生き生きと活動できるようにする。		①錦林スタイルを土台にして、自分の思いや考えをわかりやすく表現し、友達の考えを理解しようとする。 ②家族や友達、周囲の人々との関わりを深め、自分及び他者の大切さに気づき、自分の持ち味や役割が理解できるようにする。		①錦林スタイルを土台として、積極的な話し合いを繰り返し、相手の立場に立って考え、行動しようとする。 ②自分の役割や責任を果たして集団の中で自分を生かす喜びを体得し、社会と自分とのかかわりから夢や希望をふくらますことができるようにする。		＜近衛中学校の取組＞ 校内研究授業 ① 学習や活動に対して、主体的、意欲的に取り組む生徒の育成 ・授業始めの「目標(めあて)」の提示 ・授業の結び・学習の振り返り活動としての「まとめ」 ・家庭学習(復習や予習を含む)を通して自主的に学習に向かえる取組 ②よくわかり、個々の学力の充実を目指した授業の実践 ・指導と評価の一体化を図ると共に、生徒の学力実態を分析し、課題を明確化する。 ・個に応じたきめ細かな指導を具現化する。 ・朝読書や放課後学習など課外学習や家庭学習を通して、学力の定着と充実に努める。 ・校内研修や授業研究の一層の充実を図る。 ・放課後学習会(未来スタディ)などの取組を進める。		
＜第三錦林小学校の取組＞ ①漢字や計算などの復習を繰り返し行い、基礎的・基本的な学習内容を確実に身につけられるようにする。 ②読書指導の充実 読書を通して子ども達の心を耕すことを目指して、毎朝の10分間読書の取組や読書環境を整備する。		①授業の中で児童が思考する場面を意図的に設定する。 ②自分の思いや考えを表現するための手段として書く活動を積極的に取り入れる。		①単元を通して児童に付けたい力を明確にし、きちんと身に付くように考えた単元構成を設定する。 ②書くことに必然性をもたせたり、教材との出会いや単元の出口である表現場面を工夫したりすることで、書きたいという思いをもたせられるようにする。 ③研究プロジェクト研修会の充実を図る。				
＜第四錦林小学校の取組＞ ①学習のルール(8)を身につける。 ②「めあて」「まとめ」を明確にし、課題への取組について「振り返り」を行う。 ③英語に親しみ、すすんで英語を使う。		①学習のルール(8)を身につける。 ②「めあて」「まとめ」を明確にし、課題への取組について「振り返り」を行う。 ③「話したい」「聞きたい」思いをもち、すすんでコミュニケーションをはかる単元構成を行う。		①学習のルール(8)を身につける。 ②「めあて」「まとめ」を明確にし、課題への取組について「振り返り」を行う。 ③「話したい」「聞きたい」思いをもち、すすんでコミュニケーションをはかる単元構成を行う。		＜岡崎中学校の取組＞ 校内研究授業 ① 資質・能力（仮設定としての「21世紀型能力」）を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な授業改善 ・「学習指導要領の改訂に向けた実践研究事業」指定による授業改善に向けた公開授業の実施 ・「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業の工夫に関する研究指定に沿った研究活動 ・毎時の学習の意義付け「本時の目標（めあて）」「本時の振り返り（まとめ）」の工夫 ・家庭学習を定着させるための日常的な宿題の提供 ・指導・判断・表現等の視点を取り入れ、家庭学習の質を高めるための課題作り ・「SSH 研究」指定を活用した理科教育・探究活動の充実 ② キャリア教育を基盤とする、将来への展望や設計をさせるための授業改善 ・単元での学びを見通し、学習の構想を立てる工夫を通して、自己教育力と探究の手法を身につけさせる。 ・何のために学んでいるのか、知識・理解の意義付けや意味づけをして、生徒の関心・意欲・態度を高める。 ・資質・能力面から見たカリキュラムマネジメントのあり方の検討		
＜北白川小学校の取組＞ ①学習を中心として次のような姿をめざす ・自分から進んで考える。 ・自分の考えを友達に伝える。 ・友達の考えを聞いて、自分の考えと比べる。 ・自分の考えたやり方で問題を解く。 ・確かめや自分問題にチャレンジする。 ②「めあて」と「まとめ」を明確にし、振り返りを行う。 ③具体的な子どもの姿を予想し、自力解決の際の支援を充実させる。		①学習を中心として次のような姿をめざす ・自分から進んで考える。 ・自分の考えを友達に伝える。 ・友達の考えを聞いて、自分の考えと比べる。 ・自分の考えたやり方で問題を解く。 ・確かめや自分問題にチャレンジする。 ②「めあて」と「まとめ」を明確にし、振り返りを行う。 ③具体的な子どもの姿を予想し、自力解決の際の支援を充実させる。		①学習を中心として次のような姿をめざす ・自分から進んで考えたり、まとめたりする。 ・友達の考えを友達に伝える。 ・友だちの考えを聞いて、自分の考えと比べる。 ・自分の考えたやり方で問題を解く。 ・新たな課題（確かめ・問題作りなど）に進んで取り組む ②「めあて」と「まとめ」を明確にし、振り返りを行う。 ③自力解決の際の交流の仕方を工夫する。 ④具体的な子どもの姿を予想し、自力解決の際の支援を充実させる				
＊学びを〔メタ認知〕する。		＊学びを〔メタ認知〕する。		＊学びを〔メタ認知〕する。				
＜中学校ブロックとしての取組＞ ◎公開授業の参観 ◎校内授業研究 → ・授業の「めあて」と「まとめ（評価・振り返り）」の明示（授業改善） ・支援に必要な生徒に配慮した授業の展開 ・ペア学習、グループ学習による学び合いの実践 ・有効な家庭学習の提示 ・変化に富んだ授業の展開				◎「道徳」「総合的な学習の時間」を軸とした小中一貫の実践 ・両部会の担当者による情報交換(年間指導計画・題材・教材・資料他) ・各校の目標やねらい、テーマのすりあわせ(共通事項の検討) ・9年間を見通した指導計画の作成 ・目標(ねらい)や振り返り(まとめ)の形式の統一 ・評価や過程を検討する場の提供 ・授業公開や研修会の計画、実施 他				

項 目	小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）
コミュニケーション （話すこと）	・身近なことや経験したことなどから話題を決め，話す事柄を順序立てて話す。 ・聞こえる声で話す。 ・相手の顔を見て話す。 ・おわりまでしっかりと話す。		・話す事柄について理由や事例などを挙げながら，筋道立てて話す。 ・聞く人を見ながら適切な声で話す。 ・声の大きさと速さに気を付けて話す。 ・話の中心を意識して話す。 ・資料を見せながら話す。		・明確に伝わるように話の構成を工夫して，経験したことを関係付けながら話す。 ・聞き手を意識しながら適切な声で話す。 ・声の大きさと速さに気を付けて話す。 ・順序を考えて話す。		・構成を工夫して話す。 ・立場や考えの違いを踏まえて話す。 ・相手や場に応じて話す。		
（聞くこと）	・大事なことを落とさないようにしながら，興味をもって聞く。 ・相手の顔を見て聞く。 ・いい姿勢で聞く。 ・おわりまで聞く。		・話の中心に気を付けて聞き，質問をしたり感想を述べたりする。 ・話す人の顔を見て聞く。 ・うなずきながら聞く。 ・メモをとりながら聞く。		・話し手の意図をとらえながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。 ・話し手を見て聞く。 ・うなずきながら聞く。 ・自分の思いや考えと比べながら聞く。		・話し手の意図を考えながら聞く。 ・考えを比べながら聞く。 ・表現の工夫を評価して聞く。		
ノートづくり	・マスの中にていねいな文字で書く。 ・めあてにそって振り返りを書く。		・ノートやワークシートをていねいな文字で書く。 ・めあてにそって自分の考えをわかりやすく書く。		・マスや行を意識してていねいな文字を使って書く。 ・めあてにそって自分の考えや友達の考えを書いたり，わかりやすくまとめたりする。		・課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに，家庭学習につながるノート作りを目指す。		